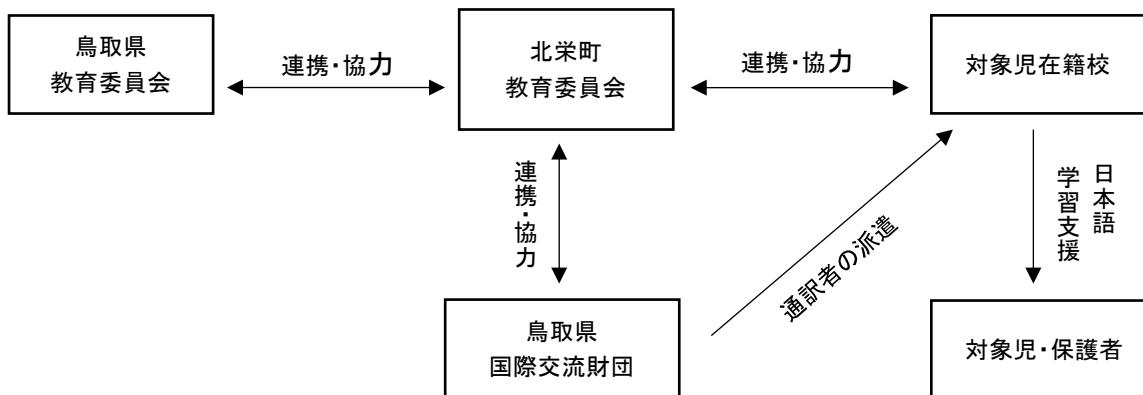


令和6年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
(I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)
事業内容報告書の概要

地方公共団体名【北栄町】

令和6年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)



2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

- (1)連絡協議会を開催し、今年度の対象児への支援状況を確認した。
- (2)在籍校内で日本語指導の担当者を定め、町から外国語通訳支援員と日本語指導支援員を配置するなど、対象児が安心して日本での学習に取り組み、学校生活を送れるような体制を整えた。
- (3)対象児の日本語力や学習の定着度を把握し、個々の実態に合わせた教育課程と個別の指導計画を作成して、日本語指導や学習支援を行った。
- (4)今年度の外国人児童生徒の受け入れ状況と本事業を活用した支援の状況について本町のHPで紹介した。
- (5)他町の学校から外国人生徒の進路状況を聞き取り、対象児や保護者に中学校卒業後の進路についての情報提供を行った。
- (7)日本語指導や在籍学級での学習に、タブレット端末やICTの機器を活用した。
- (10)外国語通訳支援員や日本語指導支援員を配置し、対象児への日本語指導や学習支援と合わせて、保護者支援も行った。

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

- (1)連絡協議会の該当校に対象児の就学先も含まれていたことで、対象児の支援状況を確認するだけでなく、就学先との情報共有をする機会にもなった。
- (2)日本語指導を行う指導者を固定することで、対象児の日本語力をさらに伸ばし、学習内容の理解を深めることができた。また、対象児に自立を促すため、支援体制を校内に広げ、より多くの人から支援を受けられる環境になっていた。
- (3)特別の教育課程を編成し、個別の指導計画や日本語指導計画を作成して学習を進めたことで、日本語で支障なく生活できるレベルまでにはなっている。しかし、日本語を使って自分の思いや考えを表出する力や専門的な学習用語の理解はまだ不十分であるため、今後も日本語指導と併せて高校受験も視野に入れた学習指導をどのようにしていくのかを検討しながら、個々に応じた教育課程を組んでいくことが課題である。
- (4)新たな外国人児童生徒を受け入れることも想定されることから、今後も町内の学校での受け入れ状況についてHP等で発信していく。
- (5)対象児や保護者が、中学校卒業後の進路についてイメージできるようになってきた。さらに具体的に卒業後の生活について見通しを持ってもらえるように、引き続き情報提供と対象児や保護者の意向の確認を行う。
- (7)日本語での学習にも意欲的に参加できるようになっているが、日本語の読み・書きへの負担が大きいため、今後も様々な学習場面でタブレット端末を活用していくことを在籍校に働きかける必要がある。

(10)外国語通訳支援員や日本語指導支援員からの支援により、対象児が今年度も安心して学校生活を送ることができている。今後は、対象児の様子を見ながら支援員の支援を徐々に減らし、自分の力で学校生活が送れるようになるための力をつけていくことを働きかけていく。

本事業で対応した児童生徒数	幼稚園等	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
	0人 (園)	1人 (1校)	4人 (1校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)
うち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒数		1人 (1校)	4人 (1校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)

4. その他(今後の取組予定等)

- ・今年度取り組んだことを継続しながら、支援員の支援の量を徐々に減らしていく、支援員がいなくても通常学級で学習や生活ができる時間を増やしていく。
- ・困ったときに、誰にでも援助が求められるような力を持つ指導を行っていく。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになつても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。

※ 事業内容報告書の概要是、担当者・連絡先欄を除き、様式9(添付1)の5. 成果イメージ資料のポンチ絵と併せて、文部科学省ホームページで公開する。